



神奈川県知的障害者施設保護者会連合会 ニュース 第103号

神奈川県知的障害者施設保護者会連合会 広報部会



コロナに負けないよう頑張ろう

千葉東庄町の【北総育成園】の状況と対応

すでにご存じのとおり、千葉県東庄町にある知的障害のある人たちの入所施設「北総育成園」で、新型コロナウイルスの集団感染が発生しました。

「北総育成園」は、利用者が20代から80代までの70人。全員が個室での生活で、支援の職員は67人です。少ないスタッフと医師が、限られた物資で、感染の危険と背中合わせのなかで、どのように医療とケアを担っているのか、この神奈川県保連ニュースでは、その状況についてお知らせしたいと思います。

【発生状況】

発端は3月27日の朝だった。入所者6人が突然熱を出した。

「インフルエンザの時期でもないのに、なぜ」「北総育成園」の白樫久子副園長は不安を覚えた。

急遽、全入所者の体温を

測ったところ10数人が発熱していた。

その日の夕方、数日前から発熱で休んでいた調理担当の女性から、「新型コロナウイルスの陽性でした。入院します」という涙声での電話があった。

翌28日、症状のある利用者・全職員の計92人を保健所が検査。夜その結果がファクスで届き、何んと陽性57人。・・・

その結果、入所者は26人が感染、うち重症化の恐れがある4人が入院。また、職員は32人が感染し、入院や自宅待機になった。

感染症対策は、毎日朝・晩手すりやドアノブを消毒し、2月からは利用者の外泊や家族との面会は、しないようにしていたにもかかわらず・・・

【発生後とった対応】

①一階のプレールームを3時間かけて消毒し、支援対

策本部を設けた。

②2階の食堂は、防護服の着替えなどをする「セミクリーンゾーン」とした。

③ウイルスが飛散している可能性が高い居住エリアは「レッドゾーン」とし、その境には、入所者の出入りを防ぐため、からのごみ箱を積み重ねた、高さ約1メートルの「バリケード」を設置した。

④医師・看護師・職員らは24時間体制で対応した。感染が確認されていない人も含め、利用者の僅かな変化にも神経をとがらせた。

つばを飲み込むときの喉仏の動きが普段と違わないか、声がかれていないか、食べるパンの数が何時もより減っていないか・・・

⑤職員は陰性でも、クラスター発覚前に感染者と接触

があったと考え、「クリーンゾーン」への立ち入りを禁止した。

対策本部会議では、職員は2メートル以上離れた「セミクリーンゾーン」の廊下の椅子に座って参加した

【感染経路は依然不明】

最初の感染確認から三週間たった4月19日、感染していた利用者約40人を、改めて検査したところ22名が陰性だった。

発熱のある利用者は数人いるが、いずれも容態は安定している。

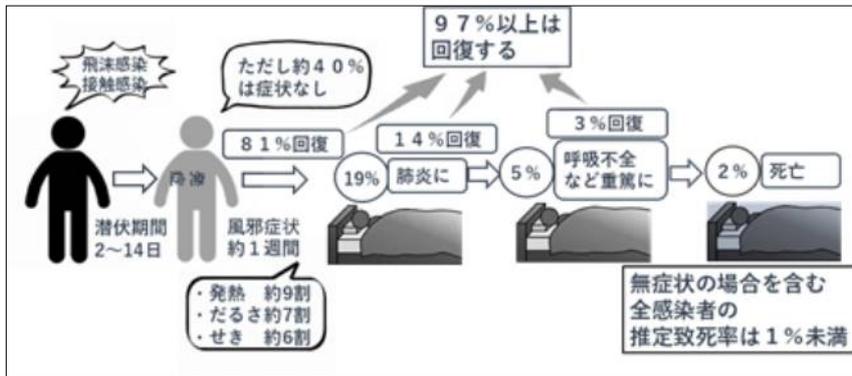
調理担当の女性職員の感染が発覚する前にも発熱者が複数いるが、感染経路は依然わかっていない。

21日には医師の常駐を解除。4・5人で対応していた看護師も1名減らし、体制を縮小している。

4月26日現在施設関係の感染者は、利用者54人・職員40人・職員家族ら27人・合計121人である

感染後の推移と感染予防について

【感染後の推移はこうなる】



新型コロナウイルスに感染した場合、どのような推移をたどり、回復率はどの程度なのかを、プレジデント誌の記事を参考に図示しますと、左記のようになります。

【感染予防のため必要なこと】

手洗い	消毒	換気	マスク	外出自粛
帰宅時・食事前・トイレ後など習慣をつける。	家族全員が健康なら不要。感染者が出たら共用部を消毒。	家族全員健康でも2~3時間に1回が目安。	無症状ならつけないでOK。外した後は必ず手洗い。	完璧な対策は困難だが、工夫で避けられる。三密の1つでもリスクがある。

(注) 「うがい」については、むしろウイルスを飲み込んでしまい、胃酸で溶かすほうが効果的という考え方もあるようです。

これについては、十分ご承知のことと思いがすが、再度専門家のご意見を整理しますと、次のとおりです。

看護師さんのアドバイス

新型コロナウイルスに関して、東京のある大学病院に勤務する看護師さんから、経験にもとづくアドバイスを寄せられました。参考になりますので、ご紹介します。

【まず大事なことは】

漠然と怖がるのではなく、きちんと理解して適切に怖がらしましょう。

新型コロナウイルスは空気伝染ではなく、接触・飛沫・人のしゃべるツバによって感染します。双方がマスクをしていれば、基本的には感染しません

【症状の特徴は】

新型コロナウイルスの症状は、7日から10日でピークを迎えます。その特徴は、

- ①最初に倦怠感が顕著に出る。
- ②頭痛は殆どの人に出現。
- ③下痢（回数は多くない）も多い。

④途中から味覚・嗅覚がまったくなくなる人が半分ぐらいいる。

⑤発熱については次のとおり。

★軽症…微熱がダラダラ続く。

★中症…39度台ぐらいまで上がる

★重症…38度以上がずっと続く

特徴は、7日目ぐらいに一旦収まってもまたぐんぐん出る。

⑥せきや痰はあまり多くない。

⑦若くても息切れが出てくる。

⑧ぜんそく・喫煙歴・糖尿病があると重篤化しやすい。

⑨肺炎像は両肺に淡い影がはつきり出る。

【現在の治療法は】

抗生物質はまず効かないので、対症療法のみ。当院での投薬は、

①発熱・頭痛…カロナール

ル（400～500mg.を3回まで）。

②咳…デキストロメトロファン臭化水素酸塩水和物。

③痰…カルボシステイン

④下痢…整腸剤。

【感染する場所・人は】

①居酒屋や外食店（ホールスタッフの手が危ない）。

②ライブハウスの人。

③陽性が出た家族（ほぼ全員が陽性）。

④孫が祖父・祖母宅に遊びに行つて濃厚接触をする。

⑤病院関係のクラスターとその家族や、それらの人と接触した人。

【私が気を付けていること】

①口から入るのが一番感染するので、食べる前ドアノブなどどこも触らない状態にしてから、爪や指と指の間までしっかり洗う。これにつきます。

②一日8時間睡眠をとる。

③現金は一切触らず、すべて電子マネーで支払。

以上

リレー投稿

障害者支援施設「ソイル栄」を紹介します ソイル栄保護者会 山本武

社会福祉法人であいの会「ソイル栄」は平成18年5月に横浜市栄区笠間3丁目10番地7号に障害者支援施設として、事業が開始されました。

今年で15年目を迎えます。ソイル栄の名称ですが、「Soul of Independent Living 英名詞で「土・土地・国・生育地」等の意味があります。

障害を持つ仲間が横浜市栄区笠間の地で自立して技と精神を育み、一人一人が自分らしい生活を目指して巣立っていくことを願い命名したと聞いております。定員は、入所50名、短期10名の入所施設です。

又、同一敷地内には社会福祉法人同愛会「リエゾン笠間」があります。

ソイル栄保護者会は、平成18年10月に開設し、2ヶ月ごとに役員会・保護者会を開催しております。

施設の行事にも積極的に参加させて頂いております。



保護者会への出席率は平均で約70%位です。

施設における利用者の仕事

自家焙煎によるコーヒー喫茶、パンの製造・製菓及び販売、作業班によるクリーニング作業、

近隣にある畑の作業があり、分担し毎日作業を行っております。

施設の行事

8月に夏祭り（盆踊り大会）の実施。近隣の方々が多く参加があります。「かさまの杜保育園」の園児による太鼓の演奏。

近隣の中学校ダンス部の学生さんによる楽しいダンスステージ、及びバンド部の演奏等があり迫力があります。音楽に合わせて利用者も一緒に踊っています。

最後は慣例になっている盆踊りで締めくくりです。「リエゾン笠間」の方々も、ゆかたに着替え参加していただいています。模擬店も沢山、利用者の方々も好きなものを買っていただいています。

11月には、利用者・支援員さんとの旅行会を一泊で行っています。今年は、箱根に行きました。



台風19号の後で心配でしたが、無事に旅行会ができました。聞きホッとしました。皆、楽しんで行っている旅行で、施設のマイクロボスで行く方と、電車で行く方と2班に分かれて行きました。

12月には、保護者、利用者、支援員さんと共にクリスマス会を行います。

テーブルに、支援員・利用者・家族と配置され、一緒に食事をとり、施設内での日常生活のお話しを聞く、家族の要望も聞いてもらえる時間であり、家族にとっても、大変有意義な会で、毎年続けております。支援員と家族が直接、話しができる唯一の会です。

保護者会の課題として、今後、保護者会をどの様に維持していくのか考慮しています。

以上

神奈川県知事あてに 要望書を提出

今回の新型コロナウイルスは、これまで私たちが経験したことのない感染力と重篤化を伴うものです。

すでに障害者支援施設において大規模感染が発生しており、神奈川県下においてもいずれば大規模な感染に見舞われる懸念があることは想像に難くありません。

このような状況に鑑み神奈川県施保連では、「新型コロナウイルスの感染拡大防止」に関する要望書を4月27付で神奈川県知事あてに提出しました。万一、感染者が出た場合その施設だけの力では対処できないことは明白です。また、近隣住民への影響にも留意しなければなりません。

そのため県・市町村そして施設・家族会が連携して対処する仕組みが必ずです。

さらに、感染者への対応や感染防止対策等が長期化した場合、施設における支援基盤が崩壊するおそれも考えられます。

このように有事の際には、支援員職員の派遣や必要な費用の給付を国に要望していただくことをお願いしたい。このような趣旨で提出しました。要望事項の詳細については、先に配布しました「要望書」（新型コロナウイルス感染拡大防止について）をご覧ください。

神奈川県知的障害者施設保護者会連合会
会長 大矢武久

津久井やまゆり園 みどり会から

食の祭典

令和元年12月14日（土）に災害時にボランティアでラーメンを提供している九州ラーメン党の党首濱田龍郎様初め大勢の方々から津久井やまゆり園に来ていただきました。



九州ラーメン党はラーメン炊きだしという災害支援のほかに、障害者施設支援も行っており、これまで30年に渡って、雲

仙普賢岳噴火災害、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震の際にも炊き出しを行っており、配ったラーメンはなんと10万杯の実績があります。

今回は津久井やまゆり園の利用者・家族・職員との交流を深めるために、ぜひラーメンを振る舞いたいとお話を受け、開催することになりました。12時30分から、350食ほど利用者・家族・職員に提供していただきました。

園として、台風19号のために園祭が中止になったこともあり「食の祭典」と位置づけして、会場の体育館・プラザ（中庭）には無料でフランクフルト、じゃがバター、お汁粉、ジュースなどの提供もあり、美味しいものを沢山食べ、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

美味いラーメンを提供していただいた九州ラーメン党の皆様へ感謝申し上げます。
文責 杉山昌明

障害のある人たちが病気になったとき、 ガをしたときに備えて

神奈川県施保連では、知的障害児者や自閉症児者が病気やケガをしたとき、また、そのために入院したときなどに備え、「やまゆり知的障害児者生活サポート協会」の運営に参加しています。加入資格、その他の詳細は、下記までお問い合わせください。

やまゆり知的障害児者生活サポート協会

〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2 神奈川県社会福祉会館内
TEL 045-314-7716 FAX 045-324-0426

編集後記

緊急事態宣言発令中。公共の施設が全て使用できなくなっており、神奈川県施保連もすべての企画を中止しています。第103号は一日も早い収束を願ってコロナ対策を特集しました。会員の皆様方におかれましてはくれぐれもご愛顧ください。広報部会長 山本武